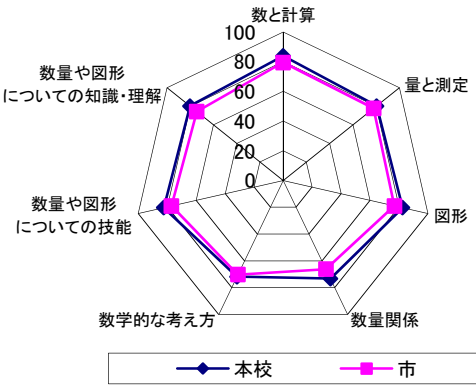


宇都宮市立海道小学校 第4学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と計算	83.8	79.4
	量と測定	80.4	77.9
	図形	82.4	76.8
	数量関係	73.3	66.2
観点別	数学的な考え方	71.9	70.2
	数量や図形についての技能	82.4	77.1
	数量や図形についての知識・理解	80.3	74.4



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○宇都宮市と比べ平均正答率が高い。真分数＋真分数の計算や小数の相対的な大きさ比べは、90%を超えており十分満足と言える。 概数に対応する範囲については、62%の正答率で市の平均正答率を下回った。	・引き続きドリル学習や基礎基本問題の小テストを行い、計算力の定着を図っていく。 ・指導助手やかがやきルーム指導員とも連携を図り、計算の苦手な児童へのきめ細やかな指導を個別に行うようにする。
量と測定	○宇都宮市と比べ平均正答率が高い。長方形の面積を求める問題は、100%の正答率であった。 分配法則を使って計算する問題は、43.2%の正答率で全問中1番低かった。	・宿題プリントを工夫し、苦手な単位に関して補充していく。また、100%の正答率の児童が15人もいたので、発展的な問題にもチャレンジさせていくようにする。
図形	○宇都宮市と比べ平均正答率が高い。円の半径を求める問題や二等辺三角形の作図は100%の正答率であり、基礎は身についている。 球の半径から、球が入る箱の辺の長さを求める活用問題は、51.4%の正答率であった。	・授業においては、デジタル教材などを活用して、視覚的に理解が深まるような展開を工夫していく。また、個人差が大きい領域であるので、指導助手やかがやきルーム指導員とも連携を図り、苦手な児童へのきめ細やかな指導を個別に行うようにする。
数量関係	○宇都宮市と比べ平均正答率が高い。折れ線グラフの任意の点や変化について読み取ることは正答率が高かった。 整理のしかたで、ピーマンとにんじんの好き嫌いを表した二次元表を利用して解く問題は、48.6%と低かったが市の平均正答率よりは、12%上回ってはいる。	・ドリル学習や基礎基本問題の小テストを行い、定着を図っていく。グラフは、算数だけでなく、社会や理科の教科や生活の中で活用する場面も多くあるので、意識して指導し算数の知識を広げる活動を取り入れていく。